

令和6年度第2回総合教育会議 会議録

1 日 時 令和7年1月9日（木）午後3時00分～午後4時50分

2 場 所 三島市役所中央町別館4階 第1会議室

3 出席者

（構成員）

豊岡市長、小塚教育長、竹林委員、草間委員、飯島委員、望月委員

（説明者他）

鈴木教育推進部長、鈴木教育推進部主任、畠教育総務課長、中村学校教育課長、沼上生涯学習課長、渡邊図書館長、及川文化財課長、増田学校教育課副参事、相磯学校教育課指導主事、寺田文化財課学芸員、飯田企画戦略部長

（書記）

諏訪部教育総務課長補佐、風間教育総務課主事

4 傍聴人の数 2人

5 協議または報告に係る事項

- （1）部活動の地域連携・地域移行の現状と今後の展望
- （2）史跡や文化財を理解し郷土愛を醸成する取組

6 発言者及びその要旨

（1）開会

（2）市長あいさつ

（豊岡市長）

本日はお忙しい中、出席いただき感謝申し上げます。

この総合教育会議により、市長と教育委員会とが十分な意思疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、今後とも一層民意を反映した教育行政を推進していきたいと思う。

今回のテーマは、一つ目に「部活動の地域連携・地域移行の現状と今後の展望」として、三島市の中学校における今後の部活動の在り方について、また二つ目に「史跡や文化財を理解し郷土愛を醸成する取組」として、市内の数多くの貴重な文化財を活

用した郷土愛醸成の方策等について、話し合っていきたいと思う。

委員の皆様方には、忌憚ないご意見を賜りますようお願い申し上げ、開会の挨拶とさせていただきます。

(3) 議題 1

部活動の地域連携・地域移行の現状と今後の展望

(中村学校教育課長)

以下事項について説明をした。

【部活動改革】

【三島市の方向性について】

【実証事業について】

【今後の展望と課題】

(草間委員)

県立高校で箏曲部の指導をしているが、高校の部活動は、県の教育委員会やPTAから補助金の支援を受けている。中郷中学校などのように学校規模が小さいためか、吹奏楽部がない中学校もあることを考えると、他の学校と連携をしながら参加できるような体制がとれると良いと思う。教員は多忙なため、専門の指導員による指導を仰ぐことにより、部活動が楽しめる環境が整い、生徒にとっても良い学校生活が送れるようになると思う。

(竹林委員)

中学校の入学説明会で、部活動の地域連携についての現状と今後の展望を説明することのだが、本会議で提案された内容をもとに説明するのか。三島市の今後の方向性としては、地域連携を優先的に推進するようだが、推進する理由を改めて伺う。また地域連携等と説明資料に記載があるが「等」に深い意味はあるのか。

(中村学校教育課長)

入学説明会においては、本会議と同じ内容を10分程度で保護者に説明をする予定である。また、すでに昨日、各家庭に「部活動通信」を配信し、市内を南エリアと北エリアと分け合同で部活動を行う実証事業について、情報発信したところである。地域連携に向けたねらいとしては、意識調査を行った中では、教職員、保護者ともに部活動に対する教育的意義を感じており、学校教育と連携しながら地域にも関わっていく流れから「連携」を軸に考えている。三島市は受け皿となるような施設がないため、会場についても学校の体育館、グラウンドを活用していく必要がある。いずれは地域移行を進め

ていくこととなる種目も出てくるのではないかと思うため、状況に応じて幅広く対応できるように「地域連携等」としている。

(竹林委員)

三島市には現実に受け皿となるクラブチームがほとんどない状況の中で、いきなり学校から切り離してやっていくのは難しいと思うため、部活動の意義を尊重しながら継承、発展させるという意味で地域連携と位置付けるのは良いと思う。市立の中学校7校が学校単位で部活動を維持するのは難しく、種目によっては、南エリアと北エリアに分け合同で部活動を行うことにより、部員数の減少や指導者不足の問題に対応ができ、顧問や種目の専門性を高めるという意味でもプラスになっていく。

また、部活動の地域連携を進めていく上で準備室のような部署と専任の職員を設置することが必要であると考え。準備室には複数の職員を配置することが望ましい。

(豊岡市長)

「地域連携等」の「等」という言葉には深い意味があり、外部指導者に依頼するという意味も含まれていることを理解して欲しい。外部指導者に依頼し、当面は部活動という形で進めていきながら、ゆくゆくは、外部の組織が学校の施設を利用して、部活動を進めていく形になるのではないかと思う。今後、準備室の設立を考えながら、関係者の合意を得て作り上げていくことが大切であると考え。

(竹林委員)

準備室とコーディネーターの設置を積極的に進めて欲しい。

(飯島委員)

部活動の教育的意義については、とても重要であると考えている。クラブチームに移行するのではなく、学校主体で進めていく方向に賛成である。プロになるための専門性が必要となる「専門職型」、チームワークや協調性を高め、友達と楽しく活動を目的とする「生涯活動型」の2つを構成する受け皿に意味があると思う。竹林委員と中村課長の話を聞き、一部の文化部のように地域移行型に適していると思われる部活の場合にも、柔軟に対応できれば良いと思った。意識調査はよくまとめられていて、保護者にとっての心配事は送迎と費用面が大きいので、どのようにクリアしていくかが鍵になると思う。平日の練習場所への移動や休日の送迎を工夫できるようになると良いと思う。クラブチームへの地域移行ではなく、学校主体の地域連携であれば、クラブチームで活動するという選択肢が経済的に難しい家庭もあるため、そのような方々に満足に移動時間を作れるということであれば、他市町に比べ魅力的な自治体になると思う。指導者不足の問題については、例えば高校の部活動と一緒に合同練習をお願いする等、連携できたら良い

と思っている。

意識調査では教員の年齢によって回答に差があるのか。

(中村学校教育課長)

年齢別の分析まではできておらず、ベテランの教員は部活動に力を入れて取り組んできた教員が多いため、自分の経験と重ねながらの回答となっている。

(豊岡市長)

外部指導者をお願いする場合は、人件費が相当なものになる。専門的に競技を行っている生徒は、クラブチームに加入しているため、そういった生徒は別にして、通常の部活動で生涯スポーツや生涯音楽活動などの基礎を作っていきたい生徒にどのように応えるかである。準備室の設置や外部との連携をして、コーディネートが重要であると考ええる。他校への移動手段については、自転車での移動やその他の交通手段の使用等が考えられるが、休日の遠征時の経費や道具の経費もかかるため、全て保護者負担になるのか、行政の負担となるのか非常に難しい問題である。保護者、学校及び行政を含めて連携しながら取り組んでいく。

(望月委員)

高校の教員として長年勤務していたが、50代の教員の場合、運動部は毎日の練習が当たり前であった。若手の教員は、部活動に対して及び腰の者が多い印象であり、最初から運動部については担当しないという教員もいた。若手の教員、生徒及び保護者の意識のギャップがあるように感じており、指導者の確保はなかなか難しい状況である。一方で中学校の部活動の意味は非常に大きいと思う。中学卒業後の同窓会等の横のつながりや異年齢集団で一つの目的をもって活動するのは非常に意味があると思う。三島市の方向性について、地域との連携を深めながら、少しずつ改革をしていくことは良いことである。

エリアによって合同部活動を行う拠点校型といったことや、各家庭で移動の手段や財源の確保をどのようにするのかといった費用の問題があるため、スポーツ協会や文化協会等の外部団体も交えて、専門の推進室を設置することが必要であると考ええる。今後、生徒、保護者、教員及び外部指導者を交えた形で、生徒の意見を聞きながら、一緒に考えてみたらいかかと思う。

(豊岡市長)

高校は学校ごとの自由度が高いが、義務教育に関しては、そうはいかないことがある。各家庭で経済的な格差もあり、様々な観点から研究していく必要がある。確定的なところまでは結論が出ていないため、今後も総合教育会議で検討いただくようになると思う。

(4) 議題 2

史跡や文化財への理解と郷土愛の醸成について

(及川文化財課長)

以下の事項について説明をした。

【文化財について】

【三島市文化財保存活用地域計画】

【史跡等の保存・活用】

【その他の広域的な文化財に対する取組】

【史跡や文化財への理解と郷土愛の醸成のために】

(望月委員)

三島市文化財保存活用計画が認定されて良かったと思う。それに基づき、文化財の保存や活用の体制について整備をして、調査や史跡整備の充実をより一層図っていただきたいと思う。

山中城跡や向山古墳群、特に 16 号墳については、日本の国家の成り立ちに関わるような時代の非常に重要な古墳であるということで市内外も非常に期待しているため、今以上の体制の充実をお願いしたいと思う。山中城跡が大雨等で崩れて防災のための整備が行われているが、災害の激甚化が叫ばれているため、他の史跡等についても、即応できるかが課題である。災害が起きると復旧、復興については、人々の生命や財産に関わるところが優先されることとなるため、文化財はどうしても後回しになってしまう。熊本地震の例を見ても分かるように、地域の象徴や拠り所として文化財がきちんと整備されていることで地域の人々の復興に対する意識も芽生えていくと思う。万が一の時のための防災の備えも考えていただければと思う。

普及と啓発の面であるが、中高校生に対しての意識づけを行い、古墳や史跡に興味を持ってもらい、次世代の文化財の保存の担い手として筋道をつけてもらいたい。地域の保存団体の方々が、高齢化により弱体化している現状があるため、行政が音頭をとりながら若手を育てていく。そのためには、SNS 等を活用しながら VR 等の IT 技術を駆使しながらアピールしていく必要がある。

著名な文化財を紹介していただいたが、埋もれている文化財もある。例えば地域の古文書や祭等の担い手がいなくなって維持が難しくなってくるということもあるが、埋もれた文化財などに保存の手を差し伸べてもらいたいと思う。郷土資料館が軸になり進めてもらいたい。

(豊岡市長)

郷土資料館の充実ということについては、学芸員をはじめ、引き続きできる限りの努

力をしていきたいと思う。文化財の保存整備については、同時に活用についても取り組んでいかなければならない。文化財保護法も改正されて活用も含めた法律になっている。山中城跡及び向山古墳群については、小学生をはじめとして、中高生や市民への啓発、観光にもつなげ、その活用に日々努力していきたい。望月委員から災害で被災した文化財の話があったが、私が会長を務める全国史跡整備市町村協議会(全史協)として、予算確保に向け全力で取り組みをしてきた。特に、昨年の能登半島の震災等では440件の文化財が被害を受けたことから、来年度の国の予算には、48億円プラスしての計上となされたところである。予算を確保していくことは大変重要なところであるため、これからも取り組んでいきたいと思っている。

三島市は三嶋大社や山中城跡、東海道、下田街道等、様々な歴史的な文化が充実している。これらを活用して、三島の魅力をさらに発信していきたいと思う。今度の大阪万博では、三島市でもブースを設ける予定であるが、外国人観光客が約350万人来ると伺っているため、そのうち5分の1の人は富士山を見ながら三島に来ていただき、楽しんでいただきたい。

11月には全国街道交流会議が三島市で開催され、箱根八里街道観光推進協議会を作り、勉強会を行う予定である。地域振興のこれからの発展について、様々な情報を発信する機会であると考えている。山中城跡のほか三嶋大社についても本殿等が重要文化財であるため、国の補助金を利用して改修工事を行っている。そちらにも関心を持っていただきたい。

(草間委員)

先日、向山16号墳を見学して説明を受けたが、とても魅力的な所であり、三島市にも多くの宝物があると素人ながら驚いた。向山小学校に通う児童は、向山古墳群を毎日見ることができて幸せである。市内小学生を対象に見学会を催し、興味のある子どもたちが中学生、高校生になり、そして三島北高校には郷土研究部があるため、プラスアルファな専門知識を身に付けながら学芸員を目指して欲しい。三島の文化、古墳や山中城等の継承につながれば良いと思う。

(豊岡市長)

三島北高校の郷土研究部には頑張ってもらいたいと思う。農兵節の保存、継承という点で地域の担い手が高齢化しているため、三島の文化を高校生が継承してくれると良いと思う。

(飯島委員)

三島には多くの文化財があり、本当に魅力的で郷土愛を深めていると思った。活用という点では、平日、土日に関わらず箱根に向かうバスが多くの観光客を乗せ走

っている。三島駅から芦ノ湖までの区間では、スカイウォーク等での集客力が高まっているため、その近くにある山中城跡にも多くの観光客に足を運んでいただけるよう工夫ができたらと思う。

(豊岡市長)

昨年の2月に全国街道交流会議の山陰大会があり、宍道湖の周りの鳥取県と同県内の5つの市町が中心となって、小泉八雲を紹介しながら、会議を盛り上げていた。次の開催地は三島市で、11月に開催予定である。

(竹林委員)

文化財保存活用地域計画の認定の際にも話題になったが、保存と活用がキーワードであり、これからは活用も重要になってくると思う。このたび教育委員に望月委員が就任されたことは、とてもプラスになることだと思う。飯島委員からも話があったように、三島市は歴史的建造物だけではなく、自然も含めて、魅力的な素材が多くあるため、生かしていかなければならない。そよ風学習を通じて市内の小中学生に三島の素晴らしさを周知しているが、可能であれば、そよ風学習に文化財に関する講座を増やすのも良いと思う。向山古墳群はすでに講座に使用されていると思うが、山中城跡や箱根旧街道、三島宿等、テーマに沿った内容を増やすことができると選択肢が増えて良いと思う。

(豊岡市長)

先ほど望月委員からも話があったが、映像で様々なことを紹介していくことが大事である。VR等のIT技術も取り入れたりしていく必要があり、事務局で検討していただければと思う。

(教育長)

今後の参考になるご意見を数多く頂戴し、大変ありがたく、今後の取り組みに生かしていきたいと思う。

(5) 閉会

(豊岡市長)

以上をもって、令和6年度第2回総合教育会議を閉会する。活発な議論に感謝申し上げます。